

営業所も合わせてほぼ100%にシンクライアントを導入 安全性に加えて運用管理の負担軽減「5~6年でコストは回収」

創業以来、4万戸超のマンションを供給しているマンション・ディベロッパーの総合地所。同社は東京本社と大阪支店、白岡営業所の3拠点でほぼ100%のPCをシンクライアント端末に入れ替えたというシンクライアント導入の大型事例だ。端末利用時のICカード認証によって、安全性が向上したほか、運用管理の負担軽減、コスト削減と期待以上の効果を生んでいる。

入退館との一体化で安全性向上 ハイブリッドカードで実現

総合地所が導入したのは、シンクライアント専用端末を用いるサン・マイクロシステムズの「Sun Ray」。事業所の移転に伴い、2006年11月にまずは東京本社に40台のSun Ray端末を設置し、2007年5月には大阪支店の全席に導入。東京本社の残りの席も順次シンクライアント端末に移行し、2007年11月には埼玉県白岡営業所への導入で、全180席のシンクライアント化を完了させた。

導入当時はクライアントPCのリプレース時期に当たっており、新システム導入に向けてはさまざまな運用方式を検討したが、Sun Rayに決定した理由の1つに、ICカードの有効活用があった。



総合地所のシステム管理を担当する企画部・山室和信部長

同社では、以前から入退館管理にセコムが提供するハイブリッド型ICカードを使ったシステムを導入しており、そのカードの接触IC部分をSun Rayの認証に使えたためだ。総合地所・企画部の山室和信部長は、「入退室と1枚にすることで、カードを必ず携帯するようになり、安全性も格段に向上します。離席時にカードを抜けば、端末は使えませんから」と説明する。

Sun Rayは、端末側に一切データを持たないのはもちろん、OS、アプリケーションもすべてサーバ側で集中管理する完全なシンクライアントシステム。「端末はマウス、キーボード以外でUSB機器を使えないようにしてありますから、システム的にも安全性は極めて高いと判断しました」（山室氏）

ICカードを挿すと即座に起動 Windowsログイン画面が直接表示

ユーザーはICカードを端末に挿し込むと、各自のデスクトップを即座に呼び出すことができ、本社、支店、営業所の間では、どの端末からでも自分の環境にアクセスできるよう連携されている。

現在のシステム構成は、ディスプレイ分離型の「Sun Ray 2」を、Sun Rayサーバを介してWindowsサーバに接続するというダブル構造で運用しているが、山室氏を含めて2人の管理者以外は、直接Windowsの起動画面に跳

ぶ設定となっている。Windowsのログイン画面を経て、ワープロや表計算などの業務ソフトを起動できるため、以前の環境と比べてもまったく違和感はないという。

また、作業途中のセッションは24時間保つように設定しており、カードを抜き挿ししたり席を移動しても、24時間以内であれば前回の画面から作業を継続できる。

業務上、シンクライアントに向かないアプリケーションは、2台のWindows端末を共有することで運用している。

組織変更時の席移動がスムーズに 必要なのは数年先を見据える目

組織変更に伴う席の移動はどこかオフィスにもある。総合地所では、以前は部署単位の移動がある度に、端末の移設を専門業者に依頼していたという。ところが、Sun Ray導入後はキーボードとマウスだけを新しい席の端末につなぐだけで済むようになった。

「あまり触れない端末とディスプレイはそのままにしていますが、キーボードとマウスは自分専用にしておきたいでしょう。席の移動は簡単ですし、コストも格段に削減されました」（山室氏）

同社が導入した端末は、本体と液晶ディスプレイ、ライセンス料を含めても、経費で処理できる10万円未満に収まった。この点もSun Rayを選んだ理由の1つだ。

さらに、システムコストに関して山室氏は、「当社でも初期費用は相当かかりました。ただし、端末を経費で購入した後は保守費用がまったくかかりません。ここで浮いた分を積み重ねて



◀▲「Sun Ray 2」の本体に社員証を兼ねたICカードを挿し込む様子（左）。すぐにWindowsのログイン画面が表示される（上）。液晶ディスプレイは汎用品を使用

いけば、5~6年で回収できるはず。シンクライアントは導入費用が割高だとしても、数年の単位で見えていくと確実にコストメリットが出てきます」と話す。

当然、バージョンアップ時のことも見据えている。同社の場合、シンクライアントへの移行によるユーザープロファイルの移動、サーバ構築などでコストはかかっているが、今回、システム全体をガッチリ固めたため、5年後のサーバリース終了時には、サーバ費用以外はほとんど発生しない。

「5年後にかかるコストまで考えたとき、シンクライアントの方がずっと安い。ここが意思決定に至った大きな要素です」（山室氏）。シンクライアント導入に踏み込むためには、数年先のことを見据える目を持てるかが重要だという。

クライアント管理の負担が激減 「保守契約解除」という判断に

続いて、「端末の保守に関わる作業負担をどれだけ軽減できるかという点も重視しました」と語る山室氏。導入

後は故障時の対応も改善されている。構造が単純なシンクライアント端末は、もともと故障率が低いのが特徴。総合地所の場合、初期不良が2台あったが、その後の目立ったトラブルはないという。

「仮に、動作不良があっても予備機と差し替えるだけで済む」（山室氏）。そのため、PCを運用していたときの保守契約は、とくに解除したそうだ。

システム管理者の立場から見ると、メンテナンスにかかる負担が激減する点こそ、シンクライアントの最大の魅力と言えそうだ。

低消費電力でオフィスが快適に PCは電気ストーブ20台、今は1台

駆動部分がないことから、シンクライアント端末は消費電力が低く、Sun Ray 2の場合はわずか4ワット。総合地所でも、この効果は発揮されているようだ。

山室氏は「PCが動いていたときに比べ、全体の消費電力はかなり落ちてはいます。以前をストーブ20台分に換算すれば、今は1台分」と例える。

オフィスワーカーからは、オフィスが静かになったとの評価も出ているという。

複合機にはFeliCa単体カード 運用性向上に向け一本化も視野に

安全性、運用性、さらにコストの面でシンクライアントは期待以上の成果を上げている。今後、さらに改善を図るとすれば、複合機の利用時に使うIDカードとの一体化が挙げられた。現在、入退室とログインは1枚で済むが、複合機を使うときの認証には、別のFeliCaカードを用いているためだ。

「複合機でも、安全性、用紙の無駄使いが避けられるなど、ICカードの有効性は実証できています。導入のタイミングの問題で別になりましたが、Sun Rayのデータを出力するにはこのカードが必要になりますから、1枚にできれば利便性はさらに高まるはず」（山室氏）

オフィス・セキュリティ、運用性、利便性、コスト。シンクライアントはこうした課題を同時に解消するための“キーデバイス”になり得る。総合地所の事例はそれを体現した好例とも言えそうだ。